

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小松, かおり, 大野, 旭, 原, 知章, 長沼, さやか メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7487

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、3年次に、「フィールドワーク実習」という授業を開講しています。静岡県内でその年の調査地を選び、1週間宿泊しながら、地域について学び、報告書を作成するという授業です。

フィールドワーク実習のテーマは、「地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域を通して学ぶ、そして地域に学びの成果をお返しする」ということです。文化人類学の方法論を地域で学び、また、地域の歴史や文化そのものを深く学ぶ。さらには、日本全体や、あるいは世界で現在問題になっているような事象を、地域を通して学び、そしてこれらの学びの成果を多少なりとも地域にお返しする、ということです。人間の文化について理解を深める文化人類学にとっても、地域の中で学ぶフィールドワークを教育方針としている静岡大学人文社会科学部としても、この実習は、非常に重要な意味を持っています。

今年は、縁あって、掛川市原泉地域にお世話になりました。原泉地域は、掛川の最北端にあり、山がちな地形で、日本全国の中山間地域の例にもれず、人口の減少が続き、とうとう数年前には地域最後の学校であった原泉小学校が廃校になりました。しかし、地域の統合の象徴である学校を失うまいと、小学校跡地を「原泉さくら咲く学校」という地域の拠点として維持することを決め、地域の方がボランティアで運営しています。中山間地域の生活の喜びと苦労、語り継がれてきた歴史、地域を維持しようという努力、という普遍的なテーマを、原泉を通して学ぶ実習となりました。

今年度は、この「原泉さくら咲く学校」を調査の拠点として、教員4名と学生10名（浅川瑞貴・兼子拓也・黒島早織・高橋歩・高安優太・竹村友花・宮口真衣・召田将道・山東隼也・柳静宜）の14名が、6月2日から8日までの6泊7日、原泉地域で現地調査させていただきました。実習の最終日にあたる6月8日には、原泉さくら咲く学校に併設されている原泉地域生涯学習センターで現地発表会を開催し、地域の方々に調査の成果を聴いていただきました。

調査の初日には、さくら咲く学校運営委員の方たちがバーベキューで歓迎してくださり、翌日からさまざまな方たちが学校を覗いては、不便はないか、訊きたいことはないか、と気を配って下さいました。昼と夜の食事は、地元の女性が作りに来て下さり、地域の食材も使ったおいしい食事を提供していただきました。このようなサポートのおかげで、学生たちはのびのびと調査させていただきました。

最初に原泉を紹介して下さったコンセプト株式会社の佐藤雄一さん、原泉さくら咲く学校理事長の鈴木信夫さん、連絡役になっていただいた鈴木渉さん、原泉での受け入れ窓口になってくださった佐藤忍さん、理事のみなさん、テナントのみなさん、各地区長さんたちをはじめとする地域のみなさん、大変お世話になりました。紙幅の都合のため、お名前を挙げるのができなかった皆様をふくめて、ここに記して厚く御礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記のURLからもご覧いただけます。

<http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/>

平成25年12月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

小松 かおり

大野 旭（楊 梅英）

原 知章

長沼 さやか